

年 組 名前：



40年ぶりに開かれ、多くの人でにぎわった鴨沢地区の盆踊り大会
＝丹波山村



QRコード
から動画を
見られます

丹波山村

100人超参加、移住者も交流

丹波山村の東端、東京都との境に位置する鴨沢地区で15日夜、40年ぶりに盆踊り大会が開かれ、住民や移住者らが輪になって交流した。昔を思い出し踊る者あり、初めての経験に笑顔する者あり。人口30人ほどとなった地区に、往時のにぎわいが戻った。

〈竹川元久〉

村内では、村役場などがあが拡大した時期を除いて続いているが、鴨沢地区は人口減少が進み担い手がおらず、1985年ごろを最後に開かれなくなった。昨年、住民から大会を開いてきた。丹波地区は新型コロナウイルスの感染声上がり、村商工会が中心

となり実行委員会を結成、復活へ準備を進めてきた。会場は以前と同じで、現在は閉校した旧鴨沢小のグラウンド。地区住民だけでなく、丹波地区や小菅村、東京都青梅市から優に100人を超える人が集まった。ちようちんが連なり、中央には太鼓台。フランクフルトや焼きそばなどの出店も並んだ。午後6時ごろ始まった盆踊りは、村民らでつくる「踊りの会」のメンバーが中心となって披露した。次第に多くの人が飛び入り参加。「奥多摩音頭」「ハラハラ音頭」など当時流れた曲で、人々が午後9時すぎまで

鴨沢で40年ぶり盆踊り

踊り続けた。

生まれも育ちも鴨沢地区の川村みどりさん(76)は「20歳ごろに踊り始め、結婚後も子どもを連れて来た頃が懐かしい。体が覚えていて自然に踊れた」と、しなやかな動きを見せた。25歳で結婚し、地区に住むようになった吉野光江さん(85)は東京都府中市出身。IIは座りながら、幼い子も交じる踊りの輪を見つめて喜んだ。「今は地域に子どももないし夜は本当に静か。今日は随分とにぎやかで、うれしい」

地域おこし協力隊員やOB、村の「大人の地域留学生」らも運営に協力。鴨沢地区在住で、復活を提案した一人の河村義信村商工会長(66)は「多くの人の協力で実現できた。本当にやって良かった」としみじみ語った。日頃は闇に包まれるグラウンドにともったちようちんの明かりに照らされる人々の笑顔を見ながら、河村会長と鴨崎竜馬実行委員長(41)は、うれしそうに同じ言葉を口にした。「来年も、続けないわけにはいかない」

(2026年7月17日付 山梨日日新聞 22面)

問1 丹波山村の鴨沢地区で、40年ぶりに盆踊り大会が開かれました。1985年ごろを最後に開かれなくなった理由を教えてください。

.....

問2 盆踊り大会には、どこからの参加者がいましたか。

.....

問3 大会関係者は、盆踊り大会が盛況であったことで、どのような思いを話しましたか。

.....

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2026 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.